

平成 22 年度 第 2 回 芦屋市立青少年愛護センター運営連絡会会議要旨

日 時	平成 22 年 11 月 18 日 (木) 午後 0 時 55 分 ~ 2 時 45 分
場 所	芦屋市役所北館 4 階 教育委員会室
出席者	委員長 新井野久男 委 員 極楽地英子 " 柳内 雅人 " 上月 敏子 " 磯森 健二 " 中尾 滋男 " 長谷川則光 " 牧野 君代 " 大塚 圭子 欠席委員 曾和 義雄 事務局 藤原教育長 , 橋本社会教育部長 , 藤原青少年愛護センター所長 , 小川青少年愛護センター主事
事務局	青少年愛護センター
会議の公開	公開
傍聴者数	1 人

1 . 会議次第

(1) 開 会

(2) 議 事

- ・平成 22 年度 上期芦屋市立青少年愛護センター事業報告
- ・意見交換

(3) 閉 会

2 . 提出資料

- ・平成 22 年度 第 2 回芦屋市立青少年愛護センター運営連絡会次第
- ・芦屋市立青少年愛護センター運営連絡会 委員名簿
- ・平成 22 年度 上期芦屋市立青少年愛護センター事業報告
- ・平成 21 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について
- ・愛護だより - 乳幼児編 1 -

3 . 審議経過 (概要)

開会

(事務局) 本日は大変お忙しい中、本年度第 1 回芦屋市立青少年愛護センター運営連絡会にお集まりいただきありがとうございます。

(欠席委員の報告)

(事務局) 開会に当たり、藤原教育長よりあいさつをさせていただきます。

(教育長) 芦屋市では保育所が不足しています。200 人の待機児童がおります。保健福祉部からも本会議に出席していただいておりますが、教育委員会でもよそ事ではなく、何とか良い方向で解決できないものかと必死になっておりますが、いろいろな問題が

出てきます。子どもの人数で言うと全体では減少の傾向がありますが、芦屋ではあまり変化はありません。平成25・6年頃から減ってくるだろうと予想もされています。

そのような中で、子どもの中でも不安定な子ども達が非常に増えています。家庭の事情が影響していて、問題につながる場合もあるのではないかと考えています。

また、先日から中学校で「麻薬の使用防止」を薬剤師会が中心で協力いただきましたが、今度は「麻薬の断り方」についてライオンズクラブに協力いただくことになっています。麻薬を友達や知り合いから「痩せ薬」だなどと誘われたときに、きっぱりと断る訓練をしておかないといけないのではないかとということで、試みてみようということです。

芦屋市は決して無風状態ではなく、小さな芽はあるという状態です。大きなことは出ていませんが気を許しては大変なことになってしまいます。

先日来、小学校長に度々言っていますが、小学校1年生プロブレムがやはり芦屋にもあります。これは、保育所・幼稚園から社会性を身に付けておかなければいけない。小学校1年生に「授業中先生の許しを得ずに勝手に立ち歩いてはいけない」と学校で指導してくださいと言っています。

こまごましたことになりましたが、教育委員会では何が起こってもおかしくない状態と危機意識をもってあたりたいと考えています。今日は皆さんから愛護の立場でいろいろご意見をいただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

(事務局)ありがとうございます。では、本会の委員長であります新井野先生より開会のごあいさつをいただきます。

(新井野)改めまして、皆さんご苦労さまです。教育長の挨拶にもありましたが、大麻のお話ですが、前回にもお話ししましたが昨年の神戸市での大麻事件を受けて「規範意識の醸成のための検討会」を立ち上げて、私もそれに関わっています。すでに4回位の会議を重ねております。

薬物の使用防止の直接的な指導も必要ですが、子どもたちに「規範意識を高めていくような教育」をしていかなければならないのではないかと話合っています。

「規範意識」つまりモラルの問題ですが最近いろいろ感じることは、子どもに指導していくにしても、その背景にある家庭や社会の規範意識はどうなのかということ振り返って、考えてみる必要があるのではないかと思えます。

子どもたちにとって魅力あるモデル(大人)の脆弱化が感じとられます。子どもたちは思春期の時代を戦っているわけで、大人に対してあえて「規範意識を破る」ような行動で示してくる。それに対して大人がどのように応えてやるのか、打てば響くような大人(モデル)が欠けているのではないかと感じています。

もう一点、学校現場で小・中学校含めて2学期は体育会や音楽会など大きな行事がありますが、私もいくつかの中学校の行事を見せていただくのですが、ある学校で茶髪の男子生徒が3人位ふんぞりかえって、プラスバンドの演奏を見ているのを横から見ていて、プラスバンドの演目が変わり、背筋がスツとなるような演奏に変われば、その生徒たちも背筋を伸ばして聞いている。

そのようなことを目にするると、生徒たちもまんざらではないと感じています。

心に響くような状況があれば、きちっと方向を向いてくれるのだと思ひました。

今日はいろいろな関係機関の皆さんの忌憚のないご意見をいただければと思ひています。

よろしくお願ひします。

(事務局)ありがとうございます。ではこれより進行の方を新井野委員長にお願ひします。

(新井野)では、次第2の議事に移らせていただきます。お手許の資料により芦屋市立愛護センターの平成22年度上半期の事業報告をお願いします。

(事務局) - 説明 -

(新井野)ありがとうございました。これにつきまして、何か質問はありませんか。

- 質問なし -

また、何かありましたら、途中でも質問していただければと思います。

では、毎回のことですが、出席していただいている皆様方からそれぞれの分野で、意見交換していければと思っています。

どなたからでも、結構ですが。では、席の順で、民生児童委員の代表からお願いします。

(極楽地)民生委員では子育て応援団等、子育て支援を行なっています。ネットワークづくりで、ネットワークを作ったことずいぶん通報が入ってきたりします。このごろは民生委員に直接ではありませんが、虐待か否か判断しづらい。大声で泣いているが虐待なのかどうか判断がしにくいところがあります。こども課に繋がっていますが、こども課や警察に連絡するのに「はっきり虐待とわからなくても通報を」と言っていただきますがやはり足踏みしてしまうところがあります。

今日も“子育て応援団”でこの話が出て、連絡してよいものかどうかというところ

です。民生児童委員ではカードを持っていて“子どもさんのことでお悩みがありましたらこちらに連絡をしてください”と民生児童委員と主任児童委員の名前書いてあるカードを、近所全体に配り、「あなたのところだけではない」ようにしますが、「自分」のところだけに入れられたように思われて「うちは虐待しているのかしら」と勘違いされて不安になられてもいけないので、そのあたりには気をつけながら啓発していきたいと思っています。

複数件耳にしたことがあります。公園などで夜遅く(午後10時ころ)を過ぎて3歳位から小学校低学年くらいの子どものつれて遊んでいる親子がいる姿を見かけるのですが、どのように声をかければ良いのだろうかと話ができました。今の社会事情のなかで、保護者がどうしても昼間遊んであげられない、夜しか遊んであげられないので、子どもとコミュニケーションが取れないと言われるかたもおられるようです。しかし、子どもの成長を考えると夜は寝るほうが体の発育や脳の発達からも良いと聞いていますので、民生児童委員だけでなく地域のかたも含めて、夜遊んでいる親子にどう接してあげればよいのかを考えていかないと、と思っています。

また、コンビニの前で中学生とか高校生の青少年がたむろして、夜に徘徊している姿を見かけますが、なかなか声をかけ難いところがあります。これからは愛護の方たちと一緒に青少年育成のためにはどのようにしていけば良いのか。私も思案しながら活動しています。

また、民生児童委員としても考えていかなければならないと思っています。老人問題だけではなく青少年にも目を向けていければ良いと思っています。

(新井野)ありがとうございました。何かご意見等ありませんか。

(牧野)カードを配っているとのことですが、町内の民生児童委員さんが子どもさんのおられるご家庭に配っているのですか。

(極楽地)そうです。

(牧野)だまって、配っているのですか。

(極楽地)ポストに入れてあります。県が作成しているカードがあります。子育てに関して

心配ごとはありませんか。悩みの相談はこちらにというカードで、子育てセンターとか、子育てに関するいろいろなところの連絡先が書かれたカードです。県の子ども家庭センターの連絡先も書かれてあり、併せて地域では民生児童委員が見守りをしているということで、民生児童委員の名前も書いてあります。

(牧野) 年1回ぐらい配るのですか。

(極楽地) だいたい年1回ぐらいは。

(牧野) そうですか。それと、コンビニの前でたむろしている子どもたちに声がかげづらいということですが、普通に挨拶してもらえれば「こんばんは、気をつけてかえりなさいよ。」とかそれだけで充分なのでは。

(極楽地) 私などは、かけられるのですが、中には声をかけにくいと言われる民生児童委員もいらっしゃいますので。

(牧野) ぜひ、気楽に声をかけてあげて欲しいです。(あなたたちを)見守っているよと。

(極楽地) ええ、そのように言ってはいるのですが。

(新井野) ありがとうございます。巡視活動のベテランのアドバイスかなと思います。それでは、柳内署長お願いします。

(柳内) 青少年とは直接関係ないのですが、管内全体の治安情勢は、平成14年の全ての刑法犯(空き巣、自転車盗、詐欺、暴行など)は2800件ありました。じょじょに減りまして、昨年1年間で1249件と大幅に減りました。今年はさらに減りまして、10月現在では昨年の同時期と比べて105件少なく960件です。

中でも一番多いのが、実は自転車盗です。自転車だけで260台盗まれていて、ひったくりなどは半減している。9月22日には女性が追いかけてくれたので、ひったくりを捕まえることができました。

振り込め詐欺は警察官を語って詐欺がありました。10月25日には芦屋市内で21件の方から警察に通報がありました。21件の通報ということからすれば50件近くの電話があったのではないかと思います。騙されたかたは1件もありませんでしたので、かなり抑止できたと思っています。

先週の12日には、高齢の女性のところに電話がありまして、すぐに通報がありキャッシュカードを取りに来た21歳の男を逮捕しました。

先ほどの260台の自転車盗についても、自転車盗は中学生、高校生が多いのですが、そのうちオートバイを盗みだし、それが更にひったくりにつながっていきますので、指導・啓発活動も行なっています。260台の自転車をよく調べてみると、そのうち3分の1の82台が市の放置自転車撤去の日の盗難でした。「それは盗られたのではなく、撤去されたのでしょうか」という話です。

盗難にあった自転車なら市から無料で返還してくれますが、自分が置いていた自転車なら返還料がかかることになります。それを逆手に取り、例えば、昨日の夕方にマンションの駐輪場に置いていた自転車が夜に盗まれ、翌朝駅前の駐輪場で乗り捨ててあったのではないかと、時間を変えて届けられると、警察も「嘘やろ」と言えませんので今まで受けていたのです。今年、精査してみると同じ自転車が3度無料で返還されていた事例もありました。82台のうち69台が4月以降に無料で返還されています。返還方法を考えると、自転車盗ももっと減少することになります。

交通事故も減っていますので、そう考えると治安はどんどん良くなっています。治安がよくなれば警察官を減らせという話になるのですが、警察の仕事は隣の家から子どもの泣き声が続いているという通報など更に増加しております。どんどん言っただければ警察も現場に出向きます。

しかし、中にはこんなこともありました。10月7日女子高校生から父親に蹴ら

れたと通報がありました。「暴行事件なので父親を訴える」という事でしたが、よく聞いてみると、娘が父親のタバコを盗って吸っているので、父親が注意するとけんかになり父親が足蹴りをしたものとわかりました。

10月16日には中学3年生の生徒から連絡があり、学校で席替えがあり、自分の彼女が他の男子の近くになり、親しく話しをしている。彼女の取り合いになり、今から公園で相手の男の子と話をつけることになったが、殴られることを考えて110番してきた。そのような事案も増えてきています。今までにない対応もしています。

今年になって、中学校でも校内暴力など心配な事案が時々出てきています。今まで平穏だった中学校・高校が少しザワ付いて来ているのではないのでしょうか。深夜に公園で騒いでいるとか、オートバイをいじっている等と通報がありますと、ほとんどが少年です。公園に行ってみるとトイレでトイレットペーパーが燃やされていたなどの事案も時々あります。

街をよくしていこうということは「青少年を健全に育成していくこと」だと思っています。芦屋だけでなく他市から来ている子どももいますので、皆さんの力を借りて、健全育成に取り組んでいきたいと思っています。遠慮なく110番通報や、芦屋署に通報をお願いします。

(新井野) ありがとうございます。何か質問等ありませんか。

(大塚) 先ほどの彼女取り合いの通報をしたことで、警察からはどのような指導をしていただいたのでしょうか。

(柳内) 個別には聞いていませんが、話し合いで済むようなことだったので、「仲良く話し合いをして」で終わっています。

(大塚) 夜公園で騒いでいると通報があるとのことですが、具体的にどこの公園でしょうか。

(柳内) 管内のいろいろなところですが、どちらかと言えばJRより下の方が多いたのですが。砂場で(タバコを)吸っていて、行った途端に砂の中にタバコを隠したりとなりますので、時間があれば公園からすこし離れたところに車を止めて現地に向かうように言っています。何度も同じ子に会うこともあります。

(教育長) 芦屋の場合薬物はどうですか。

(柳内) 今のところ大丈夫です。

(新井野) では、福祉事務所から磯森所長をお願いします。

(磯森) 直接愛護に関係することではありませんが、福祉センターが7月20日に市制施行70周年を記念してオープンしました。その中に子育て支援センターがあります。

福祉センターと子育て支援センターの利用状況を簡単に申します。

福祉センターについては7月開設以降10月末までで、約38,000人来場いただいています。

その中の子育て支援センターですが、プレイルーム・スタディールーム(自主学習室)を含む全体では、7月20日から末まで1430人、8月については3410人、9月については3359人、10月は2766人、11月の利用者数はまだ出ていません。プレイルームについては母・子の声で事務所での電話の話し声が聞こえない状態で非常に多くのかたに利用していただいています。

虐待の相談件数の推移は20年度72件、21年度92件と22年度については21年度に負けないくらいの相談件数があるということです。その中で子ども家庭センターへの一時保護の件数では、21年度では1件だけだったと報告を受けてい

ます。数値の報告だけになります以上です。

(新井野) 福祉事務所長の報告でしたが、何かありますでしょうか。

(極楽地) 今の人数ですが、2号線から南側、山側と言いますか、どの地域から何人くらい来られているのかまではわからないのですか。

(磯森) 虐待のでしょうか。

(極楽地) プレイルームの利用者について。

(磯森) 利用者のエリアまでは把握してないです。

(極楽地) 民生児童委員とこども課で一緒にやっている「あいあいルーム」がありますが、そちらに来られる方たちから聞いていても、山側の人たちが福祉センターまで行きにくいと言うことで、上(山側)の方にも作ってくれたら良いのにと意見を耳にします。

上の方たちは幼稚園の園庭開放などいろいろなところに行っておられますが、浜の方のかたの利用が多いのかなと思うのと、山側のかたが赤ちゃんともう一人子どもを連れて行くとなると、交通アクセスがしんどいだろうなど。

(磯森) JRのあたりに。と言う声は聞いています。

(極楽地) せっかく良いセンターが出来たのですが、利用者が偏った地域の方たちになってしまうのではないかと思いました。

統計が取られているのかと思いましたので伺いました。

(磯森) そこまでは取れていませんので、今後分析するときに必要なだと思いますので、考えてみます。

(新井野) それでは、よろしいですか。では、教育委員会から上月委員お願いします。

(上月) 最近いじめによる自殺という事件が起こり、新聞やテレビで報道されています。

芦屋市におきましては、そこまで大きな事件ではありませんが、児童、生徒を取り巻く問題事案、喫煙、友達・教師に対して暴力やいじめ事案も数件起こっております。そのような問題が起こったときには、芦屋警察署や関係部署や関係機関の方々とも連携し、親身になって、公園のパトロールや子どもたちの指導にあたっていただいています。ありがとうございます。

昨日も校長会においていじめ事件が起こっていないか、その芽はないのか、再度洗い出して点検・指導して欲しいと依頼したところですが、課題として捕らえていますことは、問題事案を起こした児童・生徒の保護者と一緒になって指導していく必要があるのですが、連絡を取り合うことができにくいことがあるということです。そのような課題をかかえながら学校現場では対応しているところです。生徒指導のあり方の点で、規範意識の厳しい指導が必要だという考えもあれば、一方では子どもの気持ちに寄り添いながら、愛情をかけて指導していかなければならないということもあります。その両方を考えながら個々の指導に学校現場は頑張っているところです。

教育委員会としても、必要な人的措置や関係機関との繋ぎを中心に、学校との連携を密にしながら進めているところです。何かお気づきのことがありましたらご意見をお願いしたいところです。

(新井野) ありがとうございました。何かご意見等はありませんか。

では、少し伺ってもよろしいですか。3中学校でいじめの件数はどれくらいあるのでしょうか。文部科学省調査での報告の数字になるかと思いますが。

(上月) 報告の数字ではないのですが、本年度に入りまして、現時点で教育委員会も関わって指導している件数は、3件程度ですが、学校で指導しているいじめも入れるともっと数が多くなります。

(新井野)判りました。では、小学校長代表の中尾校長先生お願いします。

(中尾)(将来非行につながる)小さな芽はあります。小学校5・6年になりますと、興味本位に喫煙や稀に万引きもあります。

小学校の場合そのような事がありますと家庭訪問をして子ども、親に丁寧に話をします。中には子どもを連れて警察に相談される保護者もおられる。保護者も止めさせなければと思われている。癖になって万引きしなければ気持ちが治まらない子もいますので、そのようなときはスクールカウンセラーに相談してどのような状況なのか話しを聞き、気持ちの部分から不満などを見つけて立ち直れるように丁寧に対応が出来るようになってきたと思います。

虐待についてはなかなか難しく、例えばアザなどがあれば発見し易いですが、なにか様子がおかしいくらいではなかなか動きが取り難いですが、まず家庭訪問をした後、保健福祉の「こども課」に相談して連携していこうとしています。件数としては少ないです。

中学校で問題となるような芽は全て(小学校でも)あると思っています。小学校ではどれくらい早期に発見し丁寧に手をかけて取り除いていけるかが課題なのですが、小学生なので目をつけている内は割合言うことを聞いてくれますが、いったん離れてしまい、中学生になると又繰り返すことがありますのでできるだけ小学校のうちにと、気合をいれて「これはだめなこと」と教えますが、保護者がどれくらい重大なことと感じてくれているのかです。「悪いことをしたのは子どもで、子どもはこのようなもの」と流されてしまうと学校だけでは止めようがありません。そのあたりが永遠につづく課題でもあります。小学校の場合は管理職も含めて、まず家庭訪問を大事にして保護者とコンタクトのとれるようにしておくことが大切と共通に認識しておこうとしています。

また、公園に遊び基地を造っているとすぐ学校に通報があります。聞いた限りは学校から現地に行くようにしていますが、周りの大人が注意してくれても良いのにな・・・とってしまいます。

学校の先生が行くと(教頭が行くことが多い)「また、教頭先生が来た」ということになります。学校でも指導をしますが、通報されたかたが「それはしたらダメですよ」と言ってくれば、子どもたちはもっとよく判るのではないかと思います。

笑い話になるようなこともあります。マンションの広場で子どもの声がうるさいと通報があり、現地に行くと子どもに聞いてみると、そのマンションに住んでいる子どもでした。その子どもたちが自分の敷地内でワイワイ言ってうるさいとマンションの管理人が「小学校の子どもがうるさいので、注意してください」という。こんなことも結構多くあります。小学校の児童には違いがありませんので注意はしますが、地域の力をもう少し出していただけるように学校としても、話をしていけないといけないかと思っています。

他にも、「道に犬の死骸があるので、何とかしてください。」と電話がかかってくることもあります。市役所に連絡してもらえば良いのだけれどと思いながら「子どもの目にふれるといけないので、処理しておきます。」と言いますが、いろいろな保護者がおられるということです。

自転車盗が多いとのことですが、体育館・青少年センターで大会がありますと、警察官がよく見に来られているのを見かけます。様子をチェックして何かあれば連絡しておられるのを見かけています。我々も廻りますが警察でも廻っていただいているのだと感謝しています。

(新井野)ありがとうございます。スクールカウンセラーについてお聞きしたいのですが。

以前から全国の中学校で全校配置されているのですが、芦屋市の場合は小学校にも配置されているのですか。

(中 尾) 芦屋市の場合は全校にではありませんが、複数校に1名配置されています。

(新井野) 1名が複数校に配置されているのですね。

(中 尾) そうです。

(新井野) 小学校8校に全部廻るのですか。

(中 尾) 週1回です。

(新井野) カバー出来ているのですか。

(中 尾) カバー出来ています。

(新井野) ありがとうございます。では中学校代表の長谷川校長先生お願いします。

(長谷川) 前回の会議の時点では特に大きな問題はなかったのですが、その後残念ながら、一部の生徒が問題行動を繰り返している学校が出てきています。それが全体に影響を及ぼさないようにそれぞれの学校が生徒指導に一生懸命に取り組んでいます。また、教育委員会とも密接に連絡を取りながら対策を進めているところです。拡大するとすれば学校全体や他市と繋がらないか、そのような点が気になるところです。今のところ太い絆はないようですが、気をつけていかねばならないところだと思っております。

いじめのことでは先ほど数件でていると話がありました。本校の例で言いますと1学期から何件か指導しています。難しいのはマスコミが取り上げるように、簡単にいじめた方が悪いからそちらにきつく言えば良いというような単純なものではありません。

裏の背景が深いものが多い。かつていじめていた子がいじめられる、とかいうように双方の感情が複雑に絡み合い、保護者を巻き込んで指導が難しいケースが多い。そのようなこともあります。実態としては簡単に根絶できるものではありませんが、大きな事件に発展しないように早期に発見して、早期に芽を摘んで行きたいと思っております。

DVの話がでておりましたが、本校では12月1日に第2回学校保健委員会を行います。全生徒向けにDVについて取り上げます。中心はデートDVを行ないません。

まだ余り一般に“デートDV”は広まっていないかもしれませんが、男女の付き合いの中で暴力を受ける。それは普通のことではないので、「暴力はダメだ」と暴力の行為自体を否定するような話につなげられればと思っています。普段の学校生活でも、家庭生活のなかでも広められることです。

初めての試みですから生徒がどのように受けとめられるのかなと思っております。念のためスクールカウンセラーに後ろで付いてもらいながら実施しようとしているところです。

(新井野) ありがとうございます。質問などありませんか。では、育成愛護協会の牧野会長お願いします。

(牧 野) 私の住む中学校区の様子ですが、保護者だけの「ウワサ」だけで話が伝わることだけは、何とか食い止めたいと思っています。

オープンスクールを利用して若い母親と中学校を廻り、実際に中学校を見てもらいました。そんなに中学校が荒れていないと安心されていました。生徒たちはキチンと挨拶してくれたと言われていました。校長先生や教頭先生にもお会いしましてお話を伺うこともいたしました。愛護委員の班集会の中でも「こう」らしいとかの想像での話しは避けるようにしています。キチンとした情報を得て話をしていこ

うということです。そのことはセンターの指導ができていてウワサだけで話をすることはありません。かつて、私が PTA で活動していた（学校が荒れていた）頃に一番困ったことは、地域のかたのあらぬウワサで子どもたちを苦しめていることがありました。

せっかく子どもたちが学校を掃除していても、なんだかんだと言われるとは子どもたちの意欲を削ぐことになります。今、問題行動をもっている子たちがいるでしょうが、ご家庭の事情も有ることで、子ども同士がやはり良くわかっている様子で、子ども同士が問題行動を起こしている子をなんとか立ち直れるようにしてやろうとしているのではないかと思います。

保護者はどのように感じているのかわかりませんが、そんな時に回りの地域の大人が、キチンとした情報を基にして見守っていかないと。以前私が苦労したのはその辺りのことです。

愛護センターの活動については、資料を見ていただければ良く判っていただけることですし、報告にもありましたが、今年度は市立の各幼稚園との顔つなぎを行なっています。“愛護だより・乳幼児編”をセンターが作成していますが。このセンター運営連絡会に小学校・中学校の代表は委員としておられます。幼稚園の代表がここに参加していただければありがたいと思っています。

幼稚園とのつながりは、(登・降園が)親子で一緒なので良いということではありません。年長さんは来年は小学1年生として一人で登校することになります。

また、福祉センターの中に、子どもたちの居場所が出来たので今後子どもたちは自由に利用していくことと思うのですが、狭いところなので危なくないようにしていただきたいと思っております。

小学校・中学校のパトロールをしていますと子どもたちと声を掛け合うのですが民生児童委員さんにもお願いしましたが、本当に気楽に声をかけてあげて欲しいと思っています。

(新井野)ありがとうございます。では、質問等ありますでしょうか。

では、続きまして大塚会長お願いします。

(大塚)いつも、皆さんありがとうございます。愛護活動については牧野さんの発表があったとおりです。

幼稚園との関わりについて、幼稚園と話しているなかで保護者の皆さんに「危険なので、このようにしてくださいと注意しても、保護者の皆さんがなかなか実行してくれない」と言われていました。

そのような事を聞きますと犯罪の低年齢化といわれていますが、若い保護者に社会の規範意識をもう一度問い直し、見つめなおし、考えてもらわないと、と思います。愛護活動については、(小さい子どもさんを抱えて)共にパトロールはなかなか難しいことであるにしろ、将来的には班集會に幼稚園からも代表に参加してもらい、交通ルールや社会性などを一緒に確認しあいながら進めていければ良いと思っています。

愛護活動は環境整備や見守りが基本ですが、市内合同パトロールでは愛護センターと協力して、福祉センターや県立芦屋特別支援学校に寄せていただき、芦屋市内の新しい施設や自然環境にも目を向けることができました。パトロールで目にしたことが家に帰って家族と話すきっかけになれば、またそれが他につながっていくことになります。そのような点でも愛護の活動はなかなか良い活動ができていると思っています。

(新井野)ありがとうございます。一応委員からは一通り伺いました。

事務局からなにかありますか。橋本社会教育部長いかがですか。

(橋本)特にありませんが、このあいだNHKで「無縁社会」という番組がありました。ご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが。単身者世帯が複数世帯を上回ってきています。芦屋でも一人親世帯が増えてきています。「こどもの最貧国・日本」という本によれば、先進国で経済力が一番厳しくなっているのが日本となっています。また、東京都福祉局が2005年の報告のなかで、虐待を受けた子どもたちの家庭状況は、一人親家庭が31.8%、経済的困難家庭が30.8%、孤立化23.6%、夫婦間不和が20.4%、育児疲れ18%となっております。孤立について、学校、地域など、子どもたちの置かれている状況で経済的状况を除いて、(経済的状况については学校や行政、地域の力ではどうしようもない)子どもに気軽に声をかけられる社会、子どもがホットできる居場所が必要であると考えます。また、子どもたちは自分が周囲の大人に見守られていることが解る社会であるべきと考えます。例えば電車の中などでは、携帯ばかりに目を落とし周囲に目を配ろうとしない大人や化粧品に没頭している若い女性が目につきます。

周囲の人が景色にしか写っていないのだと感じてしまいます。そのような社会では深刻なことが起こりかねない。関わりの持てる社会「無縁社会から有縁社会」にしていかないといけないのではないかと。有縁社会にしていくには、何が出来るのか考えて行動していかないと感じています。

(新井野)ありがとうございました。

では、配布しました資料(平成21年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について)につきまして、文部科学省が年度あけの4・5月に不登校、暴力行為、いじめについて、全国の小中高、市立、私立、国立を含めて調査を行ないます。21年度の状況を報告しますが、8月5日に発表した資料です。

不登校については、速報ということで他の問題行動より早めに報告します。最近では減少傾向で推移しているようです。

1ページに書いてありますのは全国の状況です。2ページ目は兵庫県教委の義務教育課の集計したもので、広(公)報したものです。10年前に比べると減少していることがわかります。

2ページの3番のきっかけと考えられる状況は、いじめはいじめとしてあげられていますが、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」「学業の不振」「親子関係をめぐる問題」とそれぞれ細かい問題もあるようですが表のような状況です。

3ページは、問題行動ということで、暴力行為というのは「生徒間暴力」「対教師暴力」「器物損壊」「対人暴力」の4つの種類があり、続いて学校内・学校外の発生状況で、学校外は他校生徒などとの暴力行為となっております。

4ページに小学校・中学校別に記載されており、兵庫県の場合は小学校については少し減少してきているのかと思います。全国的には小学校での暴力行為、今までなかった「対教師暴力」が小学校でも挙がってきています。これが、学級崩壊と言われることの現象の表れの一つかと思います。中学校は昔から昭和50年代半ばの「校内暴力」として全国的に言われた時代からの流れもありますので、減ったり増えたり状況もあるなかで4つの暴力行為の中味のデータが出ています。

5・6ページにいじめの状況が載っています。兵庫県の場合は全国平均を下回っていますが、いじめも以前に比べるとかなり指導が入って、学校現場の指導も行き届いたものになり、減少しているのではと思いますが、都道府県によっては状況が違うようです。いじめは深刻なケースがありますので対応が難しい問題になるのかと思います。

数字的なことばかりになりますが，委員のみなさんにもこのような調査があり，このような結果がでているということを知っておいていただいたほうが良いと思って，紹介させていただきました。

事務局からは何かありますか。

（事務局）特にありません。

（新井野）ありがとうございました。本日はいろいろな意見がでて良かったと思っています。では，社会教育部長さん最後に閉会の言葉をお願いします。

（橋本）本年度は最後になると思います。愛護センターの連絡会にご意見をいただきましてありがとうございました。また，各面で地道な活動をしていただいていますことに改めて感謝申し上げます。

地域内の子どもたちの成長についてはご心配なこともあると思います。いろいろな問題行動を起こす子どもが地域で生活していく中では，地域の皆さんのいろいろな支えが必要です。途中のプロセスではなく，結果重視になってきている社会ですが，努力をしても報われないとあきらめてしまわないで，いろいろな意見を出し合いながら進めていくことができると考えております。今後もよろしくをお願いします。本日は本当にありがとうございました。

（閉会）